

平成25年度「学校・地域パートナーシップ事業」取組の概要

市町村名	学校名等
五條市	五條市立五條東中学校

《学校支援》

1 基本コンセプト（取組のねらいや考え方）

「東中モデル」の構築と共に規範意識の高揚をめざして～思いやりの心をもったたくましい生徒の育成を学校ビジョンとし、学校側・保護者側ではなく、地域の子どもは地域で育てることを念頭に入れ、学校と家庭を繋ぐPTA本部役員とのパートナーシップをもって学校・家庭・地域が参画・協働できる広がりや繋がりのある組織体系の構築をめざすことを基本コンセプトとした。

2 取組の概要

はじめにも述べたように、学校、家庭、地域が「参画・協働」し、地域の教育力の向上を図るために、5月のコミュニティ協議会15名において、平成25年度実施計画の具現化の検討を行い、以下の取組等を実施した。

1 保健体育部・健康教育部との取組



1学年における喫煙防止教室において、1学年集団と養護教諭・PTA保健体育委員（校内学校保健委員会）とがリンクし、毎年1年生を対象とした「自らの健康は自らで学び守る」ことの育成を図っている。特に、啓発活動として、喫煙防止ポスターを校内に掲示し、保護者等からもご意見をいただき、規範意識の高揚に繋げている。また、年間を通して、「保健だより」には毎月の行事等を通して、「私たちが守らなければならないこと」をさまざまな角度から生徒指導主事と密に連携しながら発信している。



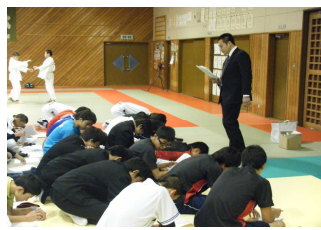
7月のパートナーシップ懇談会（地域別懇談会）において、朝食をはじめ給食や自炊の大切さ等、食育についても交流した。「食べて学ぼう！健康作り」というスローガンのもと、家庭科実習や放送時において郷土料理の紹介等を取り入れて食べる喜び、作る喜びを浸透させている。本校の「保健だより」は、柿の葉寿司実習や七草がゆ等に触れ、バランスのとれた食事について意識してみようという紹介している。また「食べる」ことは、心と体の元気につながることを生徒・保護者に伝えている。



次に、本校体育大会、校内マラソン大会における学校・家庭・地域の参画・協働について紹介する。本校の学校教育目標の1つである「体力づくりに励む」はもとより、安全面にも着手した。さらに、体育大会時における駐車場整備をはじめ、誘導等の取組を保護者の方々にしていただいている。同様に校内マラソン大会において、各ポイントに配置し、誘導あるいは安全指導も行っていただいた。地域の方々にも両行事共、盛大なる応援をいただき、学校・家庭・地域が一つになれた両日であった。最後に、体力づくりの一環とする部活動について、紹介する。1つの部活動の活性化というより、本校全体に体を動かす楽しさや喜びを目的としている。野球部においては、各小学校区の児童も含め野球の楽しさをおして、地域のつながりの大切さを学んだ。また、礼法や自己のけが予防も含めた全運動部員対象にプロフェッショナルによる講義を実施した。



阪神タイガース岡崎太一選手と共に



天理大学穴井隆将選手講義風景

2 青少年健全育成部・安全教育（環境美化）部・人権・特別支援教育部との取組



本校の教育目標である「思いやりの心をもつ」をいかに生徒をはじめ保護者に啓発するかを熟考する中、具現化したのが、親子人権教育講演会（6月実施）である。本年度は県立教育研究所研究指導主事 岡田潤一先生にお願いし、参加型学習を取り込んだストレスマネジメントについて学び合った。PTA人権・特別支援教育部の保護者の方々と共に企画・運営を図り、次年度に繋げることができた。



また、保護者対象のパートナーシップ講演会（9月実施）においても前五條東中学校 教諭 片山悦子先生にストレスマネジメント演習をしていただいた。

次に、青少年健全育成部・安全教育（環境美化）部がリンクした登下校時の安全指導あるいは「あいさつ運動」を紹介する。学校内においては、生徒



会をはじめ安全パトロール委員会における校門立哨や定期点検等を主体的に生徒たちが取り組んでいる。特に、あいさつ運動においては、各小学校の取組等を参考にし、あるいは地域の方々の協力等を仰ぎ、日々継続指導・継続運動を展開している。また、例年8月には、パートナーシップ活動として学校美化を実施している。9月には、小学校・地域・警察等と本校校内安全パトロール委員会との協働による、校区のカーブミラー清掃も実施した。

3 広報文化部・進路対策部との取組

広報文化部・進路対策部がリンクし、例年9月にPTA高校訪問（私学1校・公立3校）、10月には、3学年生徒・保護者対象のパートナーシップ活動としての進路講話（私学1校・公立3校）を実施している。これらの行事は、各中学校校における進路指導上の取組であることは言うまでもないことであるが、本校では、上記の行事をPTA進路対策部と参画・協働しながら運営を図っている。次に、学校目標にある「自ら学び行動する」とう精神のもと、一人一人の生徒が将来の夢や希望に向かって学ぶためにも、キャリア教育の推進を図っている。とりわけ、2学年時に行う、職場体験学習（1月実施）以前に、高校の先生をお招きし各高校の様子や実習を学んだり、その道のプロに来ていただき、職業について学ぶ機会等を企画し、広報文化部・進路対策部の支援や協力をいただきながら実施し、学び合える地域社会を通じて、お互いに育っていききたいと思っている。



吉野高校先生方による測量指導風景

三菱自動車喜田樞原店長（PTA会長）講義

また、広報活動方途の二段構えとして、日々の本校教育実践をコミュニティ協議会において伝え、各学年の取組を学年通信・保健だより等を通して発信している。

例えば学年通信「希望」には、マラソン大会を通してこのように記載している。

「寒さに負けずにゴールをめざして走っているみんなの姿は、一生懸命にやり遂げることの大切さを伝えてくれるものでした。この体験を通して、しんどいことから逃げないで頑張ることの大切さを改めて認識してくれたと思います。」また、学習面においては、『時は金なり』ということわざがあるように、時は日々刻々と動いていきます。だからただらするのではなく、『やるときはやる！』という思いで時間を有効に使うって集中して学習に取り組みましょう。」といったことを家庭に発信している。このことは、学校・家庭・地域パートナーシップにおける連絡・連携に反映されている。具体的には、PTA保健体育委員会をはじめ、青少年健全育成委員会・進路対策委員会・安全教育（環境美化）委員会等々にリンクし、夏のパートナーシップ懇談会における家庭教育の意義なり家庭学習の重要性について交流した内容における再認識再確認等にも反映されている。

4 総務財政（ボランティア）部の取組

総務財政（ボランティア）部は、10月の体育大会における、一品持ち寄りバザーを企画し、収益金を慈善事業に反映させている。また、小学校とも連携しながら持ち寄り品の提供をいただいている。

コミュニティ協議会では、体育大会の一品持ち寄りバザー収益金や本校生徒会を中心とした募金活動等を通して、被災地等への義援金として活用している。

また、総務財政（ボランティア）部が企画し、例年9月にPTA社会見学を実施している。特に、本校は3小学校区から年1回とは言えども、教員はもとより保護者同士が膝をつき合わせながら、忌憚なく交流し、親睦を深めることができる良き機会として運営を図っている。

以上のように、各専門部が学校と保護者とのパートナーシップをもって取り組んできた内容を述べた。

本校の指導部・研修部・教務部・事務部と上記の各専門部とがリンクし、一つ一つの行事等が生徒を真ん中に据えながら、三位一体（学校・家庭・地域）となり、更に参画・協働できる「東中モデル」の構築を実施していきたい。



